

「きらきらの この道ずっと 守ろうよ」

～平成30年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品が決定しました～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路を利用している国民の方々に道路とふれあい、道路の役割や大切さを再認識していただき、道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図るとともに、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：103団体（教育機関、ボランティア団体、報道機関等）

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない基本的な施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の活動の一環として、改めて道路の役割・重要性について考えて頂くために、昭和41年より毎年、広く一般から「道路ふれあい月間」推進標語を募集しております。53回目を迎える本年は、全国各地から8,766作品もの応募がありました。

応募作品について、三好礼子氏（エッセイスト、元国際ライター）、やすみりえ氏（川柳作家、文化庁文化審議会委員）、吉岡耀子氏（交通・環境ジャーナリスト）の3名の審査員による審査を行い、[小学生の部] [中学生の部] [一般の部] の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品が決定しました。

入選作品は、平成30年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

◆審査委員◆【総合選評】



三好礼子 委員

《三好委員》選ばれたどの標語も元気があふれ、素晴らしいと思います。小学生は道への気持ち（愛情）と目線の近さ。自由で道への感謝がストレート。中学生は、夢と希望と未来、これからの人生につながっていくものが多いですが、どれも軽快で嬉しくなります。同じ単語を使っても、これだけの異なる雰囲気になるんだと改めて思いました。一般は多種多様。クローバー、パレードや神輿、バトンなど、楽しくて新しい単語も多かったですね。「災害」のテーマは、個人的に絶対に入れたかったのですが、よいものを選びました。それにしても道と人が近くなる標語たちは夜空の星みたい。たくさんのお応募、ありがとうございました。



やすみりえ 委員

《やすみ委員》今年度も沢山の応募をいただきました。それは、標語を作る楽しさはもちろん、道路ふれあい月間の意義に共感同く込められている皆様のお気持ちの表れだと受け止めながらの選考となりました。川柳と違い、標語は文字数の決まりがある訳ではありませんが、やはり言葉のリズムやテンポの良い作品が入賞に入ったと感じます。心地よく響く標語は、各地で活用され、さらに道路ふれあいの輪を広げていってくれる事と思います。



吉岡耀子 委員

《吉岡委員》今年も、小学生からシニアまでの幅広い年齢が「道」について考え、数多くの言葉を残してくれました。道と自分を重ねてみる機会にはあまりないと思いますが、そんな貴重な体験からできた作品からは生活実感が浮かび上がってきます。とくに小学生、中学生、高校生、高校と成長段階を追って見るのは、親心さながら、ハラハラしたり応援したりした選定作業でした。そしてシニアの作品にはさすがどっしりとした力を感じました。

◆平成30年度の入選者・作品◆

最優秀賞（3作品）

【小学生の部】「きらきらの この道ずっと 守ろうよ」

吉野日穂さん（宮崎県 宮崎市立恒久小学校）

（三好委員）「きらきら」という言葉がとても生きています。「守ろうよ」で、さらに優しい気持ちになります。一瞬で光景が浮かび、作者の笑顔の絶えない生活も見えるよう。道と人と自然が輝いていますね。ありそうでなかった「きらきら標語」、大好きです。

（やすみ委員）小学生部門は素直な言葉で作られた標語が多く、とくに低学年の作品は可愛らしい言葉遣いが印象的です。最優秀の「きらきらの～」という表現もまさしくそのようなテイストです。この標語を目にしたら、きっと誰もが明るい気持ちになれることでしょう。「守ろうよ」という呼びかけの言葉も、この標語全体をテンポよく仕上げる効果につながっていると感じます。

（吉岡委員）きらきらするものなあと、と子供に聞いてみたい気がします。星、水、葉っぱ、お姫様ドレス・・・、そして道路！アスファルトが光るとか雨にライトが映るとか、それは少し違う、キラキラは何かとてもいいこと、そして守りたいもの。そんな子供のダイレクトな思いがリズムよくまとまった作品で、大人も口ずさみたくくなります。

【中学生の部】「踏み出そう 夢を広げる 今日の道」

横溝麻志穂さん（宮城県 仙台市立吉成中学校）

（三好委員）「踏み出そう」は、元気な呼びかけ。「夢を広げる」の「を」が、「が」でないことで、さらに自発的な感じに。「今日の道」で、毎日を大切にしている気持ちが伝わり、ほんとうに元気ができます。毎日口にして家を出たら、1日いいことありそう。

（やすみ委員）中学生部門は、未来への想いをしたためた内容を多く見受けられます。ちょうど自分自身の進路やものごとを考える道筋に対して興味が高くなる年頃だからなのでしょう。

そうした、心の奥から湧き出した言葉には純粋さが漂い、標語としてもメッセージ性が高いものとなりますね。最優秀賞の「踏み出そう～」は、前向きさが前面に感じられる作品です。若い世代を中心に、多くの人から共感を得ることの出来る内容がいいですね。

（吉岡委員）踏み出す、ひろげるという能動的な言葉に引き込まれました。中学生の意気込みが感じられます。あるいは、ためらいをふっきってのスタートかも知れません。夢と現実を見つめた後のその一歩を、道が応援してくれることなのでしょう。

【一般の部】「成長の 足跡残して 歩く道」

宮邊幸平さん（大分県 日本文理大学付属高等学校）

（三好委員）静かなれど力強く、一歩一歩進むひたむきさが感じられました。一番変化のある年代。進んで、悩んで立ち止まり、また進む。進めることの喜びや周囲の人々の温かさを感じられます。何だか道も誇らしげ。年齢に関係なく、そうありたいものですね。

（やすみ委員）一般の部は、幅広い目線で作られた標語にたくさん出会うことができました。高校生からシニア世代まで、言葉選びひとつにもさまざまな感性を感じることもできました。

最終的には、地域やコミュニケーション、生活の様子、そういったものが背景にしっかり見えるものが印象に残りましたね。最優秀賞の「成長の～」は作者が高校生ということもあり、自分自身の姿なのでしょう。この作品から、あれこれイメージを膨らませてみました。

（吉岡委員）17才、高校生の作品です。大人になってきた自分、あるいは周りの友人たちの実感が伝わる作品で、今まで過ごした日々の重みも感じられます。一般の部ではシニアの活躍も目立ち、「災害に負けない町を道路から」「パレードも祭り神輿もこの道路」の優秀2作品は61才、60才の作。どちらも道路そのものへの期待がストレートに感じられます。

◎最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった

「きらきらの この道ずっと 守ろうよ」を今年度の代表標語とします。

優秀賞（6作品）

【小学生の部】「じこなしの わたしのまちの つうがくる」

竹道怜菜さん（埼玉県 川口市立十二月田小学校）

「道路はね みんなをおんぶ ありがとう」

東根瑞紀さん（岩手県 盛岡市立城南小学校）

【中学生の部】「あふれ出る 希望の一歩 この道で」

永友佳凜さん（東京都 江東区立第二亀戸中学校）

「たくさんの 未来を示す 道しるべ」

尾関 禅さん（岐阜県 瑞浪市立日吉中学校）

【一般の部】「災害に 負けない町を 道路から」

佐藤隆貴さん（福島県 南相馬市）

「パレードも 祭り神輿も この道路」

小幡由美子さん（群馬県 甘楽郡甘楽町）